

[成果情報名]露地 4～5 月どりに適するネギ晩抽性品種と播種時期の組合せ

[要約]山形県庄内地域のネギ露地栽培において、4月中旬から5月上旬収穫には「春扇」を前年5月中旬に播種し7月上旬に定植が適する。また、5月中下旬収穫には「羽緑一本太」を前年6月中旬に播種し8月上旬に定植が適する。

[キーワード]4～5月どりネギ、露地栽培、晩抽性品種、播種時期

[担当]山形県庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室

[代表連絡先]電話 0234-91-1250

[区分]東北農業・野菜花き（野菜）

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

現在露地 4～5 月どりネギとしておもに栽培されている坊主不知などの品種は、分けつによる品質の低下が課題である。一方、晩抽性一本ネギは播種時期などの栽培方法の違いで抽台や収量が大きく左右される。そこで 4～5 月でも抽台せずに収量がとれる晩抽性品種と播種適期の組合せを明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 4月中旬から5月上旬収穫には「春扇」を前年5月中旬に播種し7月上旬に定植が適する。
越冬後の太りが早いため、4月中旬から5月上旬の収穫では 2L・L の割合が高く、可販収量が多い（表 1）。5月中旬以降は抽台率が高くなるため適さない（図 1）。
2. 5月中下旬収穫には「羽緑一本太」を前年6月中旬に播種し8月上旬に定植が適する。
「春扇」に比べて抽台が遅いため、5月中下旬の可販収量が多い（図 1・表 1）。
3. 以上をもとに、露地 4～5 月どりの作型の概略を図 3 に示す。

[成果の活用面・留意点]

1. 「羽緑一本太」は抽台発生の年次変動が大きい（図 1）。気温および盤茎部付近の地温の推移は図 2 のとおりである。
2. 越冬前に土寄せを行い、越冬時の強風や積雪による葉身の折れや曲がりの発生防止に努める。
3. 越冬後は土寄せ作業と同時に追肥を行い葉色の確保に努める。
4. 適応地域は 3 月下旬までに融雪する平坦地とする。

[具体的データ]

表1 収量 うね1m調査

収穫日	播種日	品種	可販本数	軟白長 (cm)	2L・L割合 (%)	可販収量 (kg/10a)
2009年 5月11日	5月16日	春扇	37	29	25	2,499
5月11日	6月18日	羽緑一本太	30	23	30	2,956
2010年 4月15日	5月18日	春扇	31	23	48	3,418
	6月17日	羽緑一本太	31	25	42	2,870
2010年 5月5日	5月18日	春扇	30	24	20	3,347
	6月17日	羽緑一本太	36	25	28	2,720
2010年 5月27日	5月18日	春扇	31	27	58	4,456
	6月17日	羽緑一本太	34	26	44	3,310
2010年 5月27日	5月18日	春扇	34	26	24	3,109
	6月17日	羽緑一本太	30	25	33	2,742
2010年 5月27日	5月18日	春扇	6	30	-	588
	6月17日	羽緑一本太	16	29	75	2,552
2010年 5月27日	5月18日	春扇	12	30	-	1,525
	6月17日	羽緑一本太	27	26	51	3,448

「-」はデータ欠
2L：軟白径2.1mm以上2.7mm未満、L：軟白径1.6mm以上2.1mm未満

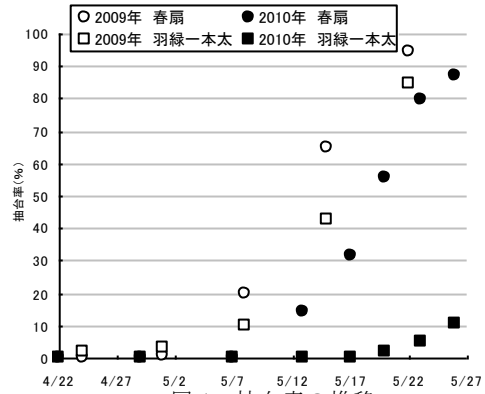


図1 抽台率の推移
(春扇：5月中旬播種、羽緑一本太：6月中旬播種)
※凡例の年次は収穫年

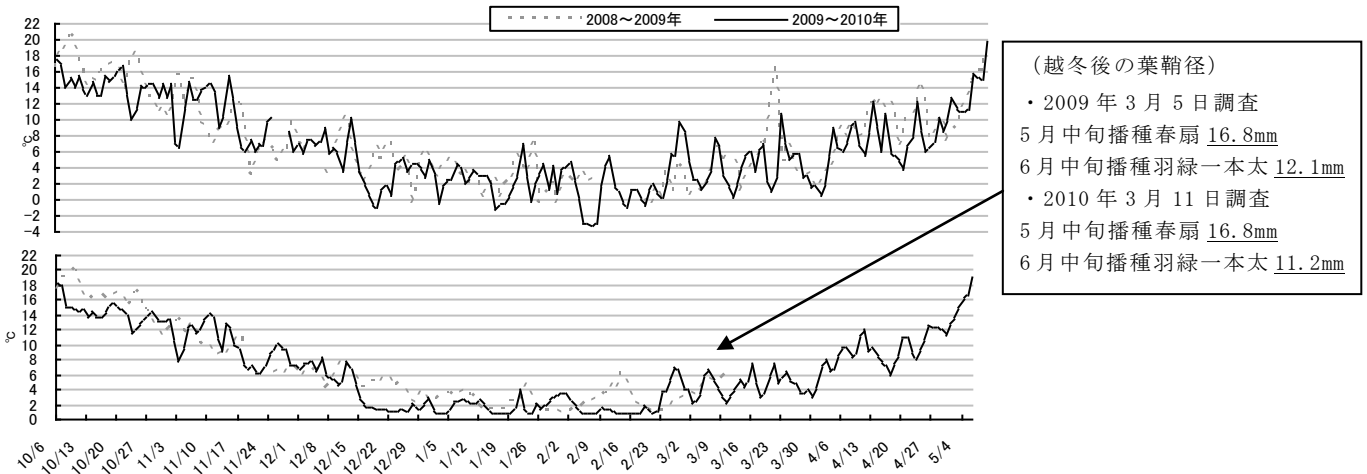


図2 日平均温度の推移 (上：気温、下：盤茎部付近の地温) と越冬後の葉鞘径

月	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12																												
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																											
春扇													○													△																									
													追肥・土寄せ													追肥・土寄せ													追肥・土寄せ												
羽緑一本太													○													△													追肥・土寄せ												
													追肥・土寄せ													追肥・土寄せ													追肥・土寄せ												

図3 作型の概略

- (1) 試験規模 1区 18.9m² 反復なし (山形県庄内産地研究室敷地内ほ場)
 (2) 播種日 (定植日) : 2008年 5月16日 (7月4日) および 6月18日 (8月12日)
 2009年 5月18日 (7月7日) および 6月17日 (8月6日)
 栽植密度 : うね幅 90cm、株間 5cm
 育苗方法 : チェーンポット CP303 に 3粒播種後 2本に間引き
 (3) 施肥量 基肥 : N12kg/10a 追肥 : 越冬前; N6kg/10a (2008年 5月18日播種区のみ N8kg/10a)
 越冬後; 2008年播種は N8kg/10a, 2009年播種は N4kg/10a

[その他]

(上田七瀬)

研究課題名 : 春 (4~5月) 収穫ねぎの安定生産技術開発
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 2008~2010年度
 研究担当者 : 上田七瀬、荘司善守